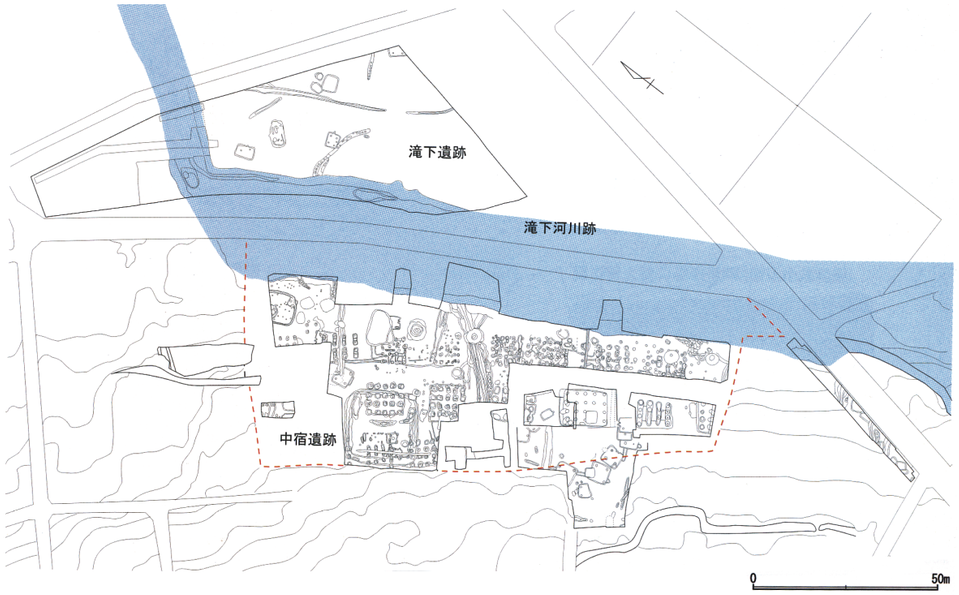
埼玉県指定史跡（さいたまけんしていしせき）　中宿古代倉庫群跡（なかじゅくこだいそうこぐんあと）

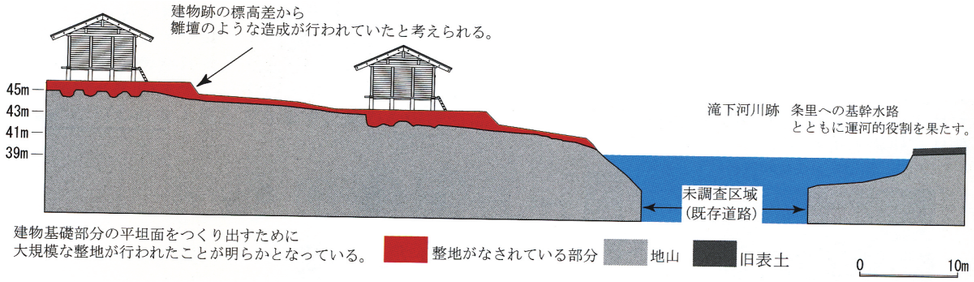
１．中宿遺跡の発掘調査

中宿遺跡は、旧岡部町の北部、櫛挽台地（くしびきだいち）北端に位置し、眼下には広大な低地帯が広がっています。平成３～10年にかけて５回の発掘調査が行われ、台地縁辺に整然と列をなした状態で大型倉庫群が発見されました。これら大型が次々と発見は、埼玉県内ではじめてのことであり、埼玉県の古代の歴史を語る上で欠かすことのできない重要な遺跡として、平成３年12月に埼玉県の史跡に指定されました。倉庫群は、７世紀末（1,300年前）～10世紀（1,000年前）頃に建てられた、古代榛沢郡家（はんざわぐうけ）の正倉院跡（しょうそういんあと）と考えられます。

中宿遺跡で発見された倉庫群跡は、ほとんどが総柱式（そうばしらしき）の建物で、第２列の建物群には大型のものが集中していました。これらの総柱式建物は、8世紀後半（1,200～1,250年前）頃に礎石（そせき）建物に建替えられます。倉庫群の東西は大溝によって区画されており、北側には滝下河川跡が確認されています。



◀中宿遺跡全体図



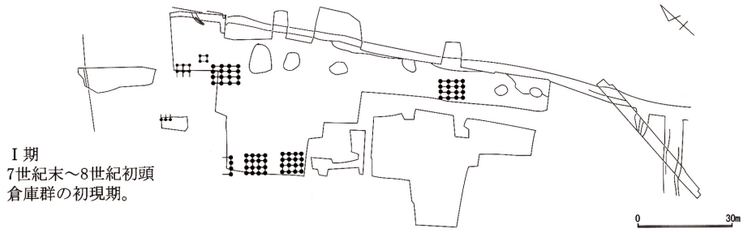
◀倉庫と河川

２．古代倉庫について

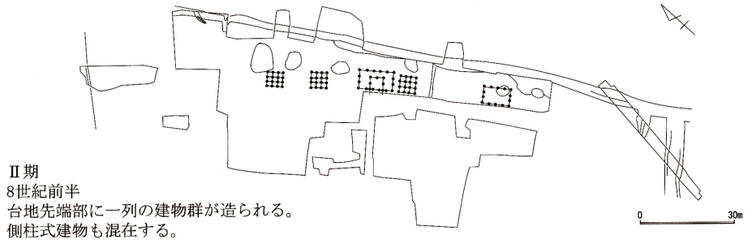
平成６～７年、発掘調査で確認された第１号建物跡、第２号建物跡の広さや柱穴の大きさを参考として、２棟の古代倉庫が復元されました。

第１号建物跡は校倉（あぜくら）、第２号建物跡は板倉（いたくら）と呼称される工法となっています。校倉は、断面６角形の材木（校木（あぜき））を交互に組み合わせて壁を造ります。板倉は、柱と柱の間に厚板を落とし込み、壁を造るものです。両方とも日本で古くから使われてきた建築技法です。

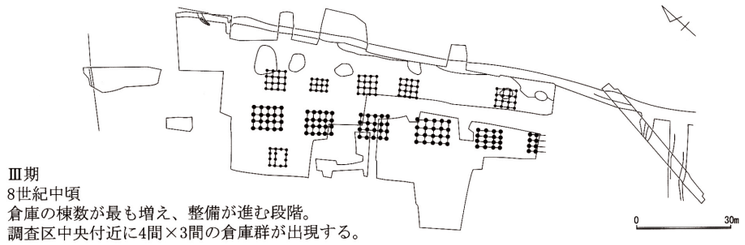
中宿遺跡の時代には、律令（りつりょう）制度（せいど）があり、中宿遺跡は榛沢（はんざわ）郡（ぐん）の郡家（ぐうけ）と考えられ、古代倉庫群には税として納められた稲が保管されていました。



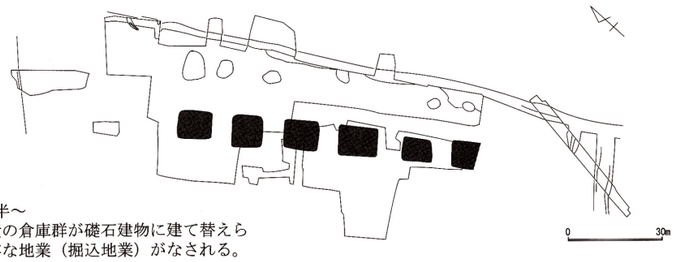
Ⅰ期
7世紀末～8世紀初頭
倉庫群の初現期。



Ⅱ期
8世紀前半
台地先端部に一列の建物群が造られる。
側柱式建物も混在する。

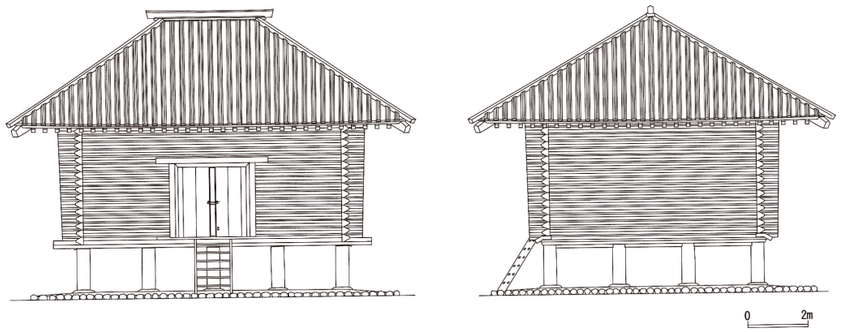


Ⅲ期
8世紀中頃
倉庫の棟数が最も増え、整備が進む段階。
調査区中央付近に4間×3間の倉庫群が出現する。



Ⅳ期
8世紀後半～
中央付近の倉庫群が礎石建物に建て替えられる。堅牢な地業（掘込地業）がなされる。

第１号建物跡復元図(校倉)▶



第２号建物跡復元図(板倉)▶

